

●北海道地方環境事務所

〒060-0001 札幌市中央区北1条西10丁目1番地 ユーネットビル9F
TEL:011-251-8703 FAX:011-219-7072

大雪山国立公園

Daisetsuzan National Park

日本の国立公園 5



大雪山国立公園

国立公園に咲く花

クモイリンドウ

Gentiana algida var. *igarashi*



画・二橋愛次郎

大雪山の高山帯だけに分布する。草丈10cmほどの小型のリンドウだが花は大きく長さ5cmくらいある。クリーム色の地に暗い紫色のすじが入り、気品のある花だ。本州の高山にあるトウヤクリンドウの変種。

●上川自然保護官事務所

〒078-1741 北海道上川郡上川町中央町98-4
TEL:01658-2-2574 FAX:01658-2-2681

●東川自然保護官事務所

〒071-1423 北海道上川郡東川町東町1-13-15
TEL:0166-82-2527 FAX:0166-82-5086

●上士幌自然保護官事務所

〒080-1408 北海道河東郡上士幌町字上士幌東3線235-33
TEL:01564-2-3337 FAX:01564-2-2933

●層雲峡ビジターセンター

〒078-1701 北海道上川郡上川町層雲峡
TEL:01658-9-4400
<http://sounkyovc.town.kamikawa.hokkaido.jp/>

●旭岳ビジターセンター

〒071-0372 北海道上川郡東川町旭岳温泉
TEL:0166-97-2153
<http://www.welcome-higashikawa.jp/vc/index.htm>

北海道の中央部にそびえ立つ大屋根



カムイミンタラ — 神々の遊ぶ庭

アイヌの人々は、大雪山をこう呼んだ。

花に埋まる広大な高山帯ほど、この言葉にふさわしいところはない。

大雪山は北海道で最も高い山群である。

山頂に立てば、広大な高山帯を目にすることができる。

山麓には大樹海が広がり、深い峡谷や森に囲まれた湖沼もある。

日本を代表する山岳公園の一つである。

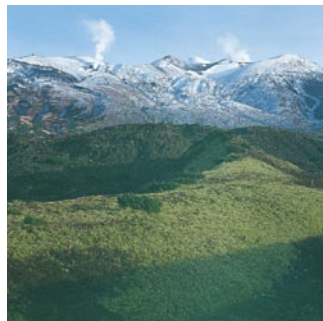
大雪山国立公園

日本の国立公園で最も広く、面積約22万6千ha、南北約60km、東西の幅は最大50kmにわたる地域である。北海道を代表する大河、石狩川と十勝川の源流地帯で、全域に雄大な山岳景観が展開する。公園の北部は北海道の最高峰旭岳(2,291m)を主峰とする山群である。最も利用者の多い地域であり、旭川市からの交通の便もよい。その南には広大な台地が広がり、トムラウシ山(2,141m)を経て、さらに西南部に十勝連峰が続く。主峰の十勝岳(2,077m)は活動中の火山である。また、公園東南部は森に囲まれた然別湖を中心に、糠平湖などを含む区域である。さらに、公園区域のほぼ中央部には石狩連峰がある。全域を通じて山麓は深い森林が覆い、各所に温泉が湧出している。

十勝連峰エリア

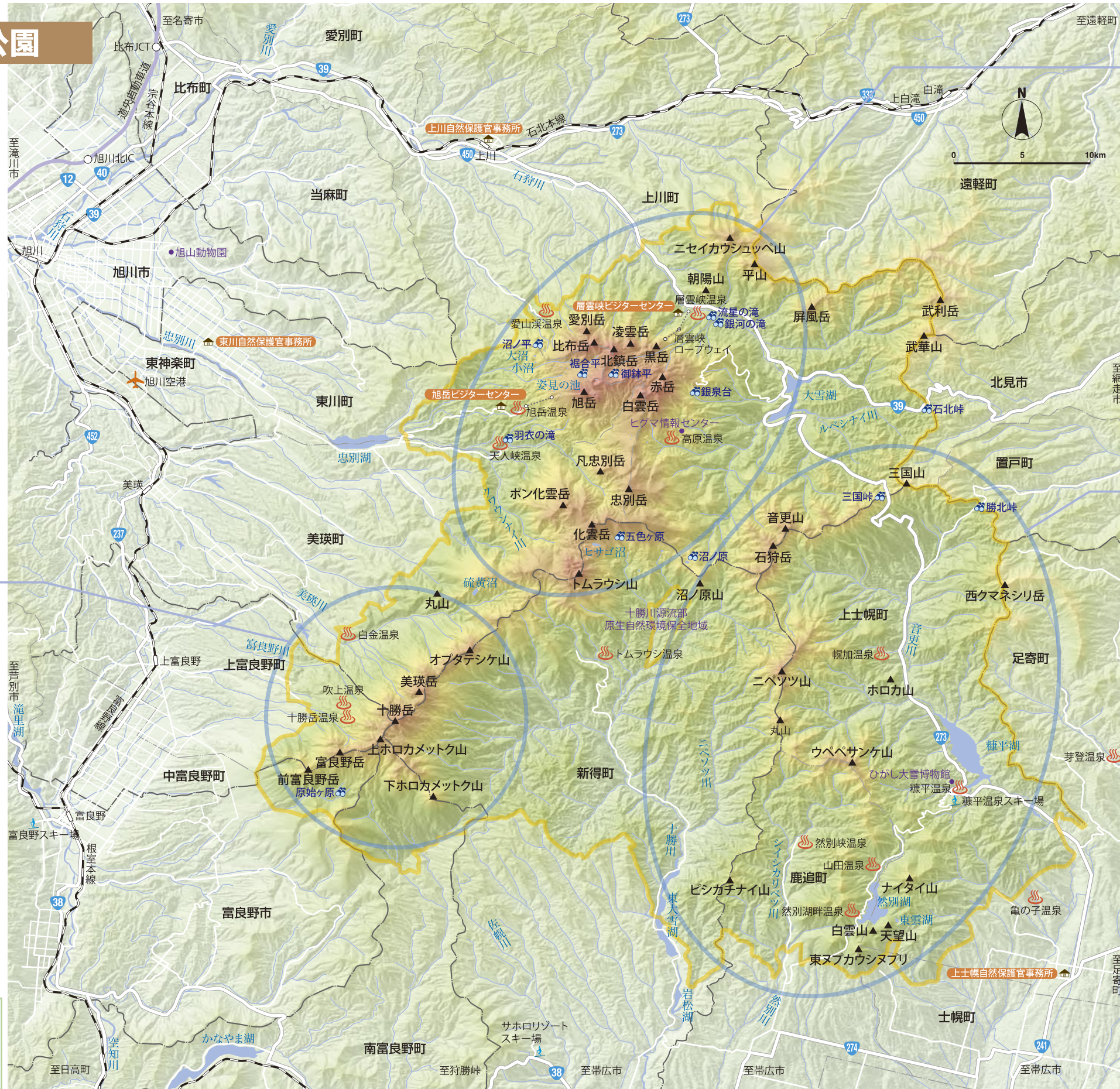
山麓からの遠望も雄大

表大雪エリアの南に、東北から西南方向に続く、活火山十勝岳を中央に据える標高2,000m前後の火山群。表大雪とは異なり、三角形の山々を連ねる起伏のある稜線と深い谷が交錯する。西方に緩やかな裾を引き、山麓の美瑛、上富良野方面から遠く農耕地や樹林越しに望む連山は壮観である。



十勝岳遠望

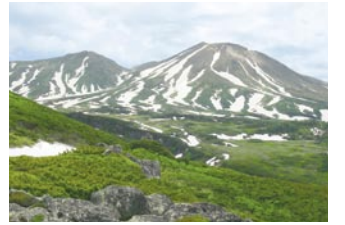
- 凡例
- 国立公園
 - 🔥 温泉
 - 🏠 ビジターセンター・自然保護官事務所
 - 👁️ ビューポイント



表大雪エリア

スケールの大きな山岳と峡谷

この公園の核心部で、旭岳を中心とする大雪火山群と、その南方に広がる広大な山上の台地を含む。なお、大雪山の名前は、旭岳のほか多数の火山をひとつの複合火山と見て命名された総称である。東西の山麓には深い峡谷がある。南部に立つトムラウシ山は、その山容と庭園的な美しさから、大雪山の山々の中でも大きな存在感のある山といえる。



当麻乗越から旭岳

東大雪エリア

深い森に囲まれて静まる湖

十勝川流域の地域で、東大雪の山々と、山中に静まる然別湖と人造湖ながら景観の優れた糠平湖、樹林に包まれた十勝三股など、独自の魅力を持つ山深い一帯である。また、石狩連峰は表大雪エリアとは異なる非火山性の山々である。なお、トムラウシ山東麓には、十勝川源流部原生自然環境保全地域がある。



十勝三股から石狩連峰



大地に刻まれた地球の歴史



姿見の池から旭岳

衝突する大地と火山

北海道の中央部には、南北に変成岩の長い帯が走っている。このことと西方の石狩・夕張地域の地質断面が西に大きく傾いた状態になっていることから、北海道はかつて二つの陸塊であり、東側の北アメリカプレート上の島が、西側のユーラシアプレート上の島に衝突し合体してできたものと考えられている。中央部に南北に長く延

びる北見山地と日高山脈は、この衝突のために隆起した山脈である。

一方、太平洋プレートは千島列島から伸びて北海道中央部をほぼ東西に走る千島弧を作り、この線上に活発な火山活動の帯を生み出した。大雪山はこの二つの線の交点上にある北海道で最も高い山群である。

活発な火山活動

この国立公園は、石狩連峰以外は地史的には比較的新しい時代の火山活動によって生まれた。活動中の火山は、大雪山(旭岳)、十勝岳と東大雪丸山火山の3山であり、特に十勝岳は活発である。しかし、かつては然別火山などが盛んに活動していた。また、十勝三股の盆地状地形は、21世紀に入ってからこの場所から流れ出した火砕流堆積物が確認され、カルデラであることが証明された。

十勝岳の活動

十勝岳(2,077m)は、近年もたびたび噴火を繰り返している活動的な火山である。

この山は、約100万年前から噴火活動のあったことが山麓に広く分布する火砕流堆積物の研究からわかっている。近世の活動は約3,000年前から始まったが、記録に残る活動は19世紀になってからであ

る。20世紀以降は大正15(1926)年、昭和37(1962)年、同63~平成1(1988~89)年の3回の記録がある。昭和37年の噴火は規模が大きく、噴煙が高度1万2千mに達し、当時火口内で操業していた硫黄鉱山の従業員5名が死亡したという記録がある。昭和63年の噴火は小規模で、山麓への被害はなかった。



大雪山に見る北極圏

寒冷な気候条件にある大雪山の高山帯には、北極圏に見られるような現象がある。永久凍土は土壌や岩石が地下深くまで通年凍結しているものだ。大雪山では標高2,000mの高所に永久凍土がある。また、高根ヶ原には凍結によって泥炭が縞状に盛り上がった地形(パルサ)ある他、土が凍結と融合を繰り返す間に大きさによって網目状や線状等に整列する構造土現象も見られる。

十勝岳噴火口から旭岳

大雪山国立公園のすがた

天上の楽園の動植物

大雪山の中部には、高根ヶ原、五色ヶ原、沼ノ原、黄金ヶ原など、標高1,400～1,800mほどの高度に広がる広大な台地状の地形がある。お花畑に彩られ、あるいは湿原の池塘が光る景観は、まさに「カムイミントラ」、神々の遊ぶ庭にふさわしい。これらは、大規模な火山活動によって噴出した堆積物が厚く積もった火砕流台地である。



赤岳のお花畑



ナキウサギ



ウスバキチョウ



アサヒヒヨウモン

高山にすむユニークな動物

大雪山の高山帯には、日本ではここだけか、ごく限られた地域でしか見られない動物が生息する。ナキウサギはその代表的なもので、大雪山系、日高山脈、北見山地と夕張山系の、寒冷な岩の多い環境に生息する。また、ウスバキチョウ、アサヒヒヨウモンなども、日本では大雪山にしか生息しない。これらはいずれも同じ種かごく近縁の種がアジア北部やアラスカなど北極圏の周辺に生息する。北海道が寒冷だった時代には、今より広い範囲に生息していたものが、氷河期が終わってからの温暖化によって高山など寒冷な地域だけに残った、遺存種と呼ばれる動物たちである。

- 1 ギンザンマシコ
- 2 ノゴマ
- 3 ホシガラス



1



2



3

高山帯の鳥

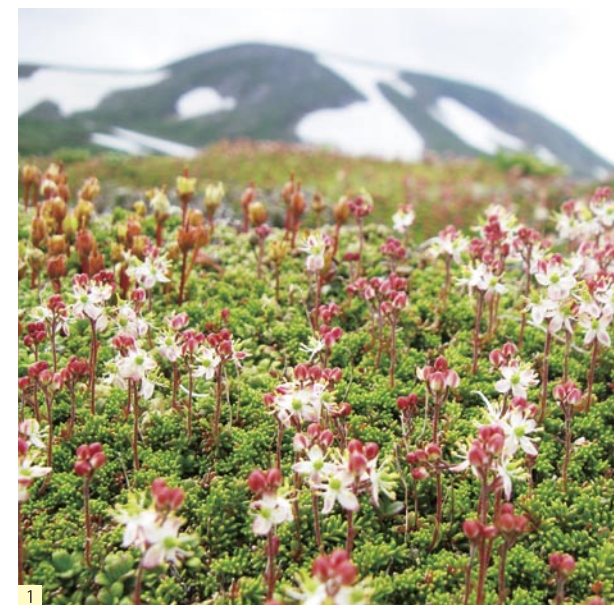
大雪山の高山帯を特徴づける鳥は、ギンザンマシコである。ギンザンマシコは亜寒帯針葉樹林に生息する鳥である。日本には不規則な冬鳥として主に北海道に渡来する。しかし、大雪山、日高山系、羅臼岳、利尻山など北海道の高山のハイマツ帯では夏季にも観察されており、大雪山では繁殖が確認されている。そのほか、ノゴマ、ホシガラス、ビンズイなどが高山帯で見られる。

多様な高山植物群落

広大な高山帯を持つ大雪山には、地形や気象条件に応じてさまざまな高山植物群落が発達している。大雪山の高山帯は標高約1,700～1,800m以上に成立する。ここに生育する植物は250種以上が知られ、ハイマツとお花畑が交錯する色彩豊かな景観を作っている。植物群落は環境別にいくつかのタイプに分けられる。

岩礫地のコマクサやタカネキシミレ、シロサマニヨモギなど。高木が生育できない風衝地のチシマツガザクラ、イワヒゲ、ミネズオウ等の矮性低木群落。尾根筋の積雪

の少ない場所のハイマツ群落。積雪が多く湿潤な場所のエゾノハクサンイチゲ、エゾキンバイソウ、エゾノツガザクラ、トカチフウロなど。雪田のアオノツガザクラ、チングルマ、エゾコザクラなど。湿原の池塘にはミツガシワやエゾホソイなどが見られる。希少種も多く、エゾオヤマノエンドウ、ジンヨウキシミレ、ホソバウルップソウなどの大雪山固有種や、リシリリンドウやナガバノモウセンゴケのような、分布のごく限られた種類も見られる。



1



2



3



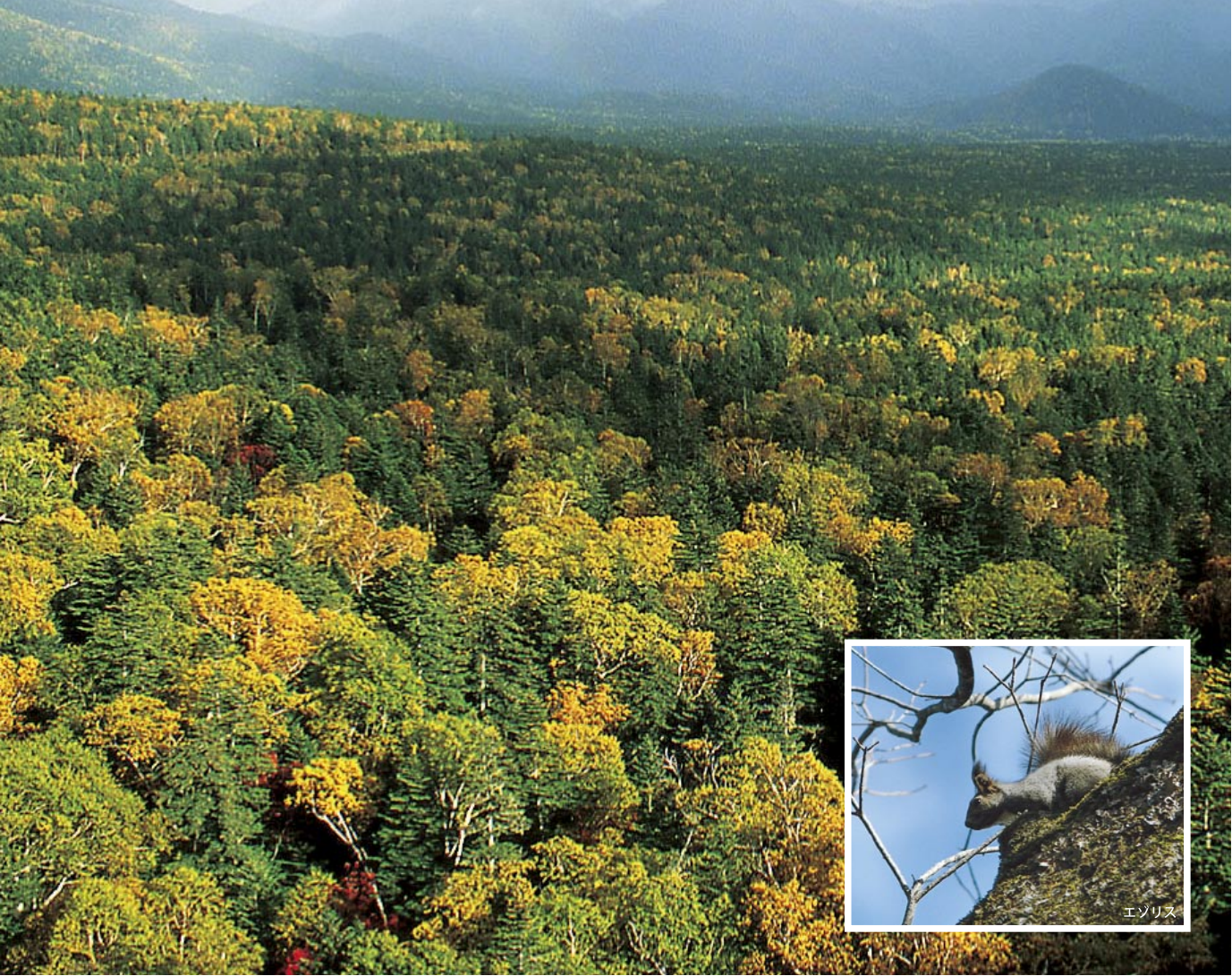
4



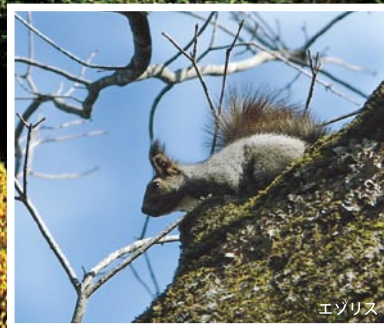
5

- 1 チシマツガザクラ
- 2 ホソバウルップソウ
- 3 コマクサ
- 4 シロサマニヨモギ
- 5 エゾノツガザクラ

大樹海と動物たち



三国峠から見る十勝三股の大樹海



エゾリス

山麓に広がる大樹海

三国峠から十勝三股方面の大展望。最近カルデラであることが明らかにされた三股盆地に、針広混交林の大樹海が広がっている。この国立公園でも最も奥深い地域である。広大な大雪山の森林には、ヒグマをはじめ、エゾシカ、キタキツネ、エゾリス、シマリス、オコジョなどの哺乳類、シマフクロウ、クマガラなど多くの鳥類がすんでいる。目撃記録が大雪山地域でわずかにあるだけの幻の鳥ミュビゲラも確認されている。また、キンメフクロウも、繁殖が確認されたのは東大雪地域だけだ。



キタキツネ



ヒグマ

ヒグマは大雪山国立公園では全域に生息しており、縦走路などで足跡を見ることがある。人とのトラブルを防ぐために、p14に記したように、高原温泉地区でヒグマ情報センターを中核として具体的な活動が始まっている。

原生林の主

エゾシカ

エゾシカは北海道のほぼ全域で個体数が増加しており、大雪山地域でも道路上から姿を見る機会が多い。増加したエゾシカは、樹木や高山植生、あるいは農作物への食害を起こしているほか、自動車とエゾシカの衝突事故が発生するなどの問題も起こっている。このため、国や自治体では、食害などの影響を正確に把握するための調査を進め、利用者への注意喚起と事故防止に努めている。また、北海道は、個体数管理の取り組みを始めている。



シマフクロウ



シマフクロウは極東アジアのごく狭い地域に分布する世界最大級のフクロウで、体長が70cmほどもあり、日本では北海道だけに生息する。川沿いにテリトリーを定め、主に魚を捕って生活している。かつてシマフクロウは北海道全域に生息し、個体数も多かった。集落の近くにもすみ、アイヌの人々は、この鳥を「コタンコロカムイ(村の守り神)」と呼び、人間の警護のために天上から派遣され、魔物を追い払ってコタンを守ってくれる最高位の神としていた。

しかし、近年営巣する樹洞のある大木の伐採や、多くの河川の水質が悪化した



巣箱の設置

ために激減し、今では北海道東部を中心に120羽ほどが生き残っているに過ぎない。環境省ではこの鳥を絶滅からまもるため、巣箱の設置などの保護増殖事業を行っている。大雪山国立公園では、東部地域にごく少数が生息している。



Column

大陸に近い北海道の動物相

日本の中で、北海道と本州以南とは、生息する動物の種類がかなり異なっている。たとえば、哺乳類ではツキノワグマ、ニホンザル、カモシカ、イノシシなどは北海道には生息せず、逆にヒグマ、クロテン、シマリスなどは本州以南には生息しない。

これは、北海道と本州が、氷河期以降の海面上昇によって早い時期に隔てられ、陸生動物の行き来ができなくなったためである。これに対し、サハリンや、サハリンを通じて沿海州とはより遅くまで陸続きであって、移動ができたため、これらの地方と共通性が強い。ただ、沿海州やサハリンには分布していても北海道には生息しない動物もあるし、北海道から九州まで分布する日本固有の種類もある。

洞爺丸台風

昭和29(1954)年9月に北海道を襲った台風15号は、青函連絡船洞爺丸を転覆させ、多数の犠牲者を出したことから「洞爺丸台風」と呼ばれる。この台風は、北海道の森林に空前の風害をもたらしたが、最も大きな被害があったのは大雪山地域であった。

今、半世紀前の被害の痕跡を探すのはむずかしいが、林相が一変したと言われるほど大量の風倒木が生じたのである。このような大災害は何百年かの周期で起こる、森林の循環のひとつの過程なのかもしれないが、暗い森を作っていた巨木の消失は、森林内の乾燥化を招き、動物相にも影響を与えていると考えられる。



水が造り出す風景

この公園の山麓には、層雲峡、天人峡などの溪谷や、然別湖など、水が主役となる景勝地が多い。



ちゅうじょうせつり 柱状節理

層雲峡や天人峡の両岸の岩壁は、岩に規則的な割れ目ができ、多角形の柱が連続して立っているように見える。この現象を柱状節理という。層雲峡や天人峡を作る岩石は溶結凝灰岩で、噴火の際に噴出した火砕流に含まれていた火山灰や軽石などの物質が固まってできたものである。火砕流によって地表に現れた噴出物が厚く積もると、その熱で物質が溶け、それ自身の重量によって圧縮され、密度の高い岩石ができる。これが溶結凝灰岩である。地表の岩石が冷えると、収縮するため岩に割れ目ができ、それが地中まで伸びてこのような柱状節理ができる。

そうろうんきょう 層雲峡

石狩川が大雪山の東側を抜けるところにある深い峡谷である。大雪火山の火砕流が堆積した台地を川がえぐり取って生まれたもので、これだけの厚さに噴出物を堆積させた噴火の大きさと、それを削り取った水の力を見ることができる。両岸には溶結凝灰岩の柱状節理が連続し、流星の滝、銀河の滝などの滝がかかる。また、上流には大函・小函の景勝がある。



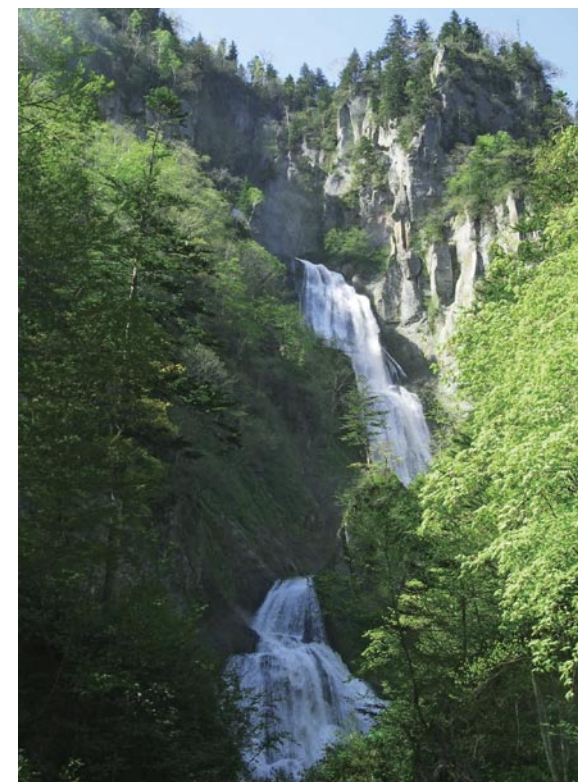
しかりべつこ 然別湖

この国立公園でただ一つの大きな自然湖沼で、水面標高約 800m、面積約 3.5km² の貧栄養湖である。成因については、1 万年以上に活動していた火山が川をせき止めてできたとする説と、カルデラ湖であるとする説がある。湖面は 12 月中旬からほぼ半年結氷する。周辺を森林に囲まれた環境にあり、南岸には白雲山と天望山がある。なお、然別湖の東方には小さな東雲湖があり、然別湖南岸を通る歩道が通じている。また、南方の東ヌブカウシヌプリ周辺の岩が多く風穴のある地帯には、標高は低いがナキウサギが生息している。風穴から吹き出す冷たい風が、一帯に高山に似た寒冷な気象条件をもたらしているためである。



てんにんきょう 天人峡

大雪山の西麓にあり、石狩川の支流、忠別川が作った峡谷である。岩質も成因も層雲峡と同様、大雪火山の火砕流に起因する溶結凝灰岩で、柱状節理が連続し、落差 270m の羽衣の滝と、幅の広い敷島の滝がかかる。この周辺の森林は、洞爺丸台風 (→ p11) による被害が比較的少なく、見事な林相を保っている。



流星の滝・銀河の滝

水瀑

冬の大雪山は、すべてが雪と氷に覆われる。層雲峡に懸かる多くの滝も凍りつく寒さである。

Column

旭岳の雪の結晶



北海道大学教授の中谷宇吉郎 (明治 33(1900) ~昭和 37(1962) 年) は、顕微鏡で見た雪の結晶の美しさに魅せられて雪の研究の道に入り、結晶の分類を行った。また、人工雪の研究から、結晶の生まれる条件を世界ではじめて明らかにした。その研究フィールドになったのが旭岳である。低温で清浄な大雪山の雪は、理想的な結晶構造を雪洞にこもって研究する中谷に見せたのである。

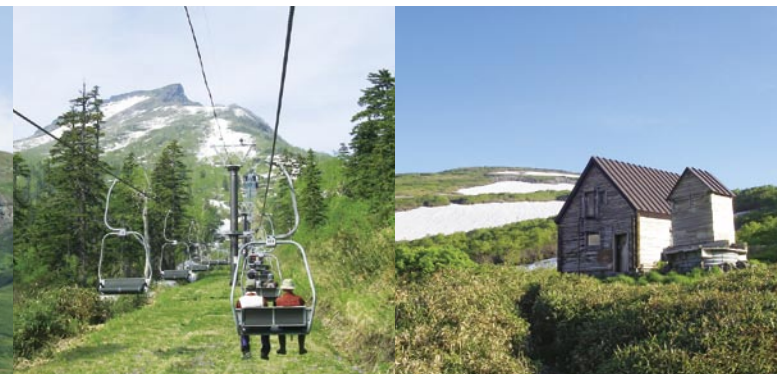
羽衣の滝

ようこそ 大雪山国立公園へ



国立公園に来たら、まずビジターセンターに立ち寄ってみよう。地域の自然や歴史の展示、スタッフの案内解説などを通して、公園を楽しむための最新の情報が入手できる。さまざまな自然体験イベントやプログラムも行われている。

大雪山国立公園では、層雲峡と旭岳温泉にビジターセンターが、高原温泉にヒグマ情報センターが環境省により整備されている。また糠平には上士幌町のひがし大雪博物館がある。



層雲峡ビジターセンター

層雲峡温泉にある。自然観察コース案内、地形ジオラマなどの展示と、ハイビジョン映像による大雪山の四季の紹介などを行っている。また、季節の自然散策やバードウォッチング、スノーシュートレッキング、アニマルトラッキングなどの行事も行っている。



〒078-1701 北海道上川郡上川町層雲峡 tel. 01658-9-4400
<http://sounkyovc.town.kamikawa.hokkaido.jp/>

高原温泉ヒグマ情報センター

高原温泉・沼めぐりコースの入り口にある。ヒグマとの接触事故防止のため、入山者に対するレクチャーのほか、監視パトロールを行っている。



北海道上川郡上川町層雲峡（高原温泉）（外部からの連絡方法なし）

ヒグマとの つきあい方

高根ヶ原の東麓には森に囲まれた小さな湖沼が多く、高原温泉をベースにここを巡るトレッキングコースは、秋の紅葉季には多くの人々が訪れる。しかし、この地域はヒグマの行動圏と重なるため、人とヒグマの距離が非常に近くなることもある。

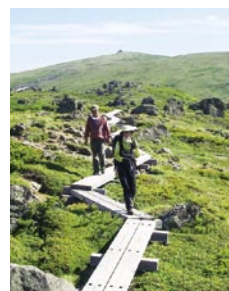
ヒグマ情報センターは、ヒグマとの接触事故を防止するため、環境省が平成6（1994）年に設置した施設である。利用者は、入山前にここでヒグマ情報やヒグマに関する知識などの研修を受けることが義務づけられている。また、常駐するスタッフがコースの監視を行い、ヒグマの出現状況や天候に応じてコースの閉鎖などの措置をとり、事故の防止に努めている。



持続可能な利用 登山道の管理計画

この公園で登山者が多いのは旭岳からトムラウシ山にかけての表大雪一帯、それに十勝連峰の南部である。

かつて静かな山だったところも、近年登山者の増加で登山道の荒廃が目立ちはじめ、高山植生への影響が憂慮されるようになった。このような状況に対処するため、環境省は歩道の路線ごとに、その場所の環境と利用状況に応じた登山道管理のあり方と登山の心得を定めている。



旭岳ビジターセンター

旭岳温泉にある。ジオラマなどにより大雪山の自然を紹介している。また、自然観察会などを開催している。



〒071-0372 北海道上川郡東川町旭岳温泉 tel. 0166-97-2153
<http://www.welcome-higashikawa.jp/vc/index.htm>

ひがし大雪博物館

糠平温泉にある上士幌町立の博物館。大雪山地域の自然に関する展示を行っている。また、自然観察会や、自然観察ガイドの養成事業なども行っている。



〒080-1403 北海道河東郡上士幌町糠平 tel. 01564-4-2323

大雪山における登山の心得

- ❗ 大雪山を次世代に引き継ぐために、自然環境への配慮に努めましょう
- ❗ ほかにも利用者があることを認識し、周りへの配慮をしましょう
- ❗ 登山の基本は事故防止と自己責任にあります
- ❗ 大雪山での宿泊時には、多くの環境への影響に配慮しましょう
- ❗ 残雪期・融雪期・降雨時に登山する場合には、環境への影響を特に考えましょう
- ❗ 管理者などの指示は遵守しましょう

利用案内 1

表大雪エリア

この公園の最北部で、旭岳周辺のエリアである。黒岳と旭岳の中腹までロープウェイがかり、登山は比較的容易である。層雲峡や天人峡の探勝は、p24~25 を参照されたい。旭川市が利用の起点となり、バスまたは鉄道とバスを乗り継いで公園に入る。

黒岳 (1,984m)

層雲峡温泉からロープウェイとリフトを乗り継いで高度約1,500mまで行き、残りの480mを登ると黒岳山頂である。大雪山中央火口が見渡せる。山頂は狭いが、その先の稜線は幅広い。周辺一帯はコマクサなど植物の種類の多いところだ。黒岳から「御鉢平」と呼ばれる火口縁に沿って北鎮岳の裾を巻き、裾合平から旭岳ロープウェイまで行くのがポピュラーなコースだ。アップダウンは大きくなるが火口の反対側を周り、旭岳を越えてロープウェイまで行くこともできる。



御鉢平



黒岳五合目の展望

沼ノ平



当麻乗越から見る沼ノ平

旭岳温泉の北にある愛山溪温泉から登る。愛別岳中腹標高1,400mに広がる静かな湿原で、池塘が美しい。当麻乗越を越えて裾合平へ至るコースがある。



愛山溪から沼ノ平へ

銀泉台から赤岳 (2,078m)

赤岳の麓、銀泉台までは層雲峡温泉からバスがある。第一花園、第二花園を経て赤岳に登れば、表大雪の山々が望める。赤岳から小泉岳にかけては、山体が古くから形成されており、リシリリンドウやキバナシオガマなど、希少植物の多いエリアである。



リシリリンドウ



キバナシオガマ



赤岳山頂から旭岳方面

旭岳 (2,291m) ・ 裾合平



旭岳とチングルマ

旭岳温泉から標高約1,600mの姿見駅までロープウェイがある。噴煙を盛んに上げる旭岳の馬蹄形の火口が正面に見える。旭岳や黒岳方面への登山の出発点であるが、短時間の探勝には、近くの姿見池と夫婦池やその先に広がる裾合平を巡る探勝路がある。裾合平にはチングルマの大群落があり、花どきや紅葉期には見事だ。姿見駅と麓の温泉駅の間には歩道もある。旭岳にはあまり植生のない、砂礫の道を登る。黒岳を経て層雲峡には、火口縁のどちらを回っても行くことができる。



高原温泉・沼めぐり

高根ヶ原の下に広がる森林内には、多くの小さな池沼がある。高原温泉を出発点として沼を巡るトレッキングコースは、秋の紅葉の時期には特に人気が高い。

この時期はマイカー規制をしているので事前の確認が必要。高原温泉までは層雲峡からバスがある。歩道入り口にあるヒグマ情報センターで、必ずレクチャーを受けてから出発しよう。ヒグマと遭遇する危険があるときは、歩道が閉鎖されることもある。



高原温泉のハイカー



全山を染め上げる紅葉

大雪山の紅葉は早く、9月半ばを過ぎる頃に高山帯からはじまる。ウランマツツジやチングルマなどの小さな植物が燃えるような赤に色づくのだ。

紅葉は急ぎ足に山を下り、やがて森林帯にはいると、ナナカマド、ダケカンバ、エゾイタヤ、カツラなどの木々が、赤や橙や黄に染まり、全山を艶やかな錦で飾る。雪がすべてを覆い尽くす直前の、植物たちの饗宴である。高原温泉周辺の紅葉は特に鮮やかである。

駆けおりる大雪山の秋



トムラウシ山周辺

大雪火山の中央火口より南、高根ヶ原からトムラウシ山にかけての区域は、この公園でも、最も「カムイミントラ」の名にふさわしいエリアである。広大な台地、見渡す限りのお花畑、各所に見られる周氷河地形など、天上的な世界が展開する。

このエリアは日帰り登山が困難で、避難小屋を利用するかテント持参で行動するしかない。十勝連峰などを含めた大雪山地域には、日本アルプスにあるような設備の整った山小屋はない。黒岳石室と白雲岳避難小屋は夏季のみ管理人がいるが、そのほかの忠別岳、ヒサゴ沼などの避難小屋はすべて無人である。また、キャンプは指定地以外は禁止されているので、登山に当たっては、各地のビジターセンター等に問い合わせ最新の情報を得たうえで、慎重な計画を立てるとよい。主なルートは無雪期なら技術的にむずかしいコースではないが、距離が長く、上級者向きである。



沼ノ原からトムラウシ山へ



トムラウシ山の縦走路



ボン化雲岳のお花畑

Column

北海道の氷河の痕跡

北海道の氷河地形としては、大雪山系の南方にある日高山脈のカル（小規模の氷河が作った半円形の浅い谷）がよく知られている。日高山脈より標高の高い大雪山にも各所にカル状の地形があり、モレーン（氷河堆石）のような堆積物はあるが、それが本当にカルであるかどうかは、いろいろな議論があって、すべての研究者が認めるには至っていない。それは、現在の山体を作った大雪山の火山活動が、氷河が発達した最終氷期より後の、より温暖な時期まで続いていたと考えられているからであり、爆発火口がカルに似た地形になることも一つの理由である。

利用案内 2

十勝岳エリア

十勝連峰は、大雪火山群の南に連なる山々で、中心となる十勝岳は今も活動する活火山である。利用が多いのは十勝岳、美瑛岳、富良野岳などである。なお、このエリアの西側（上川地方）は高い前山がなく、連峰の遠望がきくが、東側（十勝地方）は北海道でも有数の山深い地域であり、一般の利用ルートはほとんどが西麓の美瑛、富良野を起点とするものである。

十勝岳エリアマップ



美瑛岳と美瑛富士

美瑛岳 (2,052m)

十勝岳の北に続く山。白金温泉から望岳台を経て十勝岳登山道に入り、途中から左に分かれてポンビ沢を渡渉し、西尾根を登るコースと、白金温泉から山頂北側の美瑛富士避難小屋近くの稜線にとりつくコースがある。岩の積み重なった山頂からの展望がよい。



チングルマ



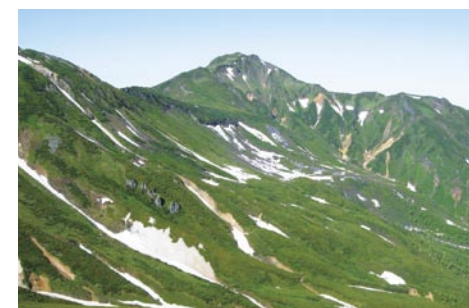
三段山から十勝岳

十勝岳 (2,077m) ・望岳台

望岳台には白金温泉から車道が通じている。正面に噴煙を上げる十勝岳を望む展望地点で、一帯の砂礫地にはイワブクロなどが多い。ここから吹上温泉を経て十勝岳温泉まで、森林内を歩く歩道がある。十勝岳への登山道は岩礫地に行く。山頂近くには大正火口、グランド火口、62火口など、多くの火口がある。山頂は狭い溶岩ドームで、視界を遮るものはない。登山に際しては登山道入り口の火山情報を確認しよう。なお、三段山、前十勝岳周辺のスロープは、冬季は好適な山スキーのフィールドとなる。



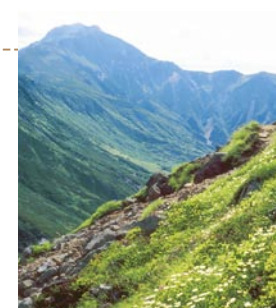
イワブクロ



富良野岳

富良野岳 (1,912m)

十勝連峰の南部にある富良野岳は、早く活動を終えた火山である。そのため、高山植物が豊かである。登山には十勝岳温泉が基地となる。山頂から見下ろす原始ヶ原は魅力的である。また、距離が長く一般向きとは言えないが富良野から布部川沿いに登るコースもある。



お花畑より富良野岳



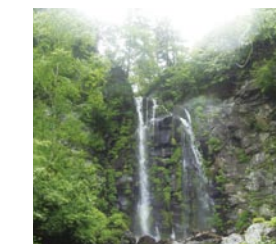
原始ヶ原

原始ヶ原

富良野岳の東山腹にある湿原。針葉樹林と湿原が交錯する広大な地域で北方的な景観がすぐれている。富良野からニングルの森を経由する富良野岳登山コースの途中にあり、布部川沿いのコースと林間コースの2本のルートがある。川沿いコースの途中には滝が多い。途中ワイヤーやロープに頼る場所もあるので、足ごしらえには注意が必要である。また、湿原には木道が未整備であり、湿原の荒廃を防ぐためにも、思わぬ事故を防止するためにも歩道以外には立ち入ってはいけない。



ワタスゲ



蒼天の滝

利用案内 3

東大雪エリア

然別湖と糠平湖を中心に、ニペソツ山、ウペペサンケ山、石狩岳などの山岳に囲まれたエリアである。層雲峡からの国道 273 号線（糠平国道）で三国峠をこえて入ることもできるが、鉄道利用の場合は、JR 根室本線の帯広か新得から入ることになる。

然別湖

このエリア随一の景勝地である。森林に囲まれた自然性の高い湖沼景観を、湖岸からの探勝のほか、カヌーや遊覧船による湖上からの探勝もできる。また、冬季にはさまざまな氷上のイベントが行われる。公園入り口の扇ヶ原は、十勝平野と日高山脈を一望できる展望地点として知られる。また、東雲湖へのガイドツアーや凍結した湖上でのクロスカントリースキーツアーやスノーシューによるツアーが行われている。

また、然別湖の西、シシカリベツ川には然別峡があり、屏風岩、岩戸の滝などの見所があり、森林浴コースも設けられている。川沿いには鹿の湯をはじめ、多数の温泉が湧出している。



霧の湖を巡る



氷のイベント（然別湖コタン）

糠平湖

糠平湖は昭和 31（1956）年に完成した発電用ダムによる人造湖である。東大雪の山々をバックにした湖水の風景が景勝地として評価されている。糠平では一帯の自然をフィールドとしてカヌー体験やナキウサギ観察会などの体験活動が行われている。旧国鉄土幌線のコンクリート製アーチ橋がいまも多数残り、北海道遺産に指定されていることもあって訪れる人が多い。湖西岸沿いの線路跡は、北海道自然歩道として整備されている。



初夏のタウシュベツ橋

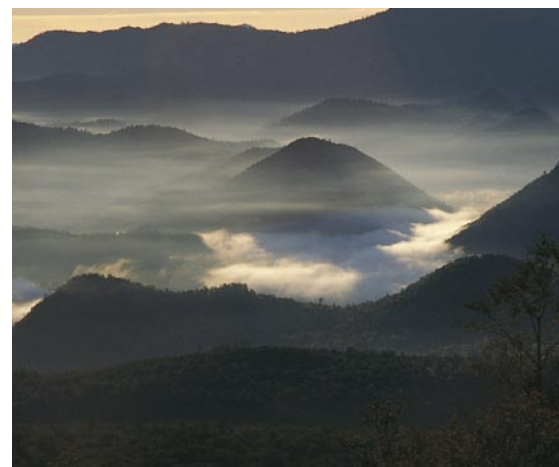


氷上のスノーシュー

東大雪の山々

表大雪の雄大なイメージと大きく異なり、石狩連峰、ニペソツ山、ウペペサンケ山など急峻な山岳がそびえ、それらの周囲には広大な樹海が広がり、奥深い自然を体感することができる。

然別湖の外輪山をなす東西のヌブカウシヌブリ、白雲山と天望山などは十勝平野や日高山脈の眺望に優れる。一部には低標高ながら永久凍土が存在し、多くの高山植物が見られ、ナキウサギの生息地ともなっている。



東大雪の夜明け



エゾツツジ



ミネズオウ

Column

十勝三股、今むかし

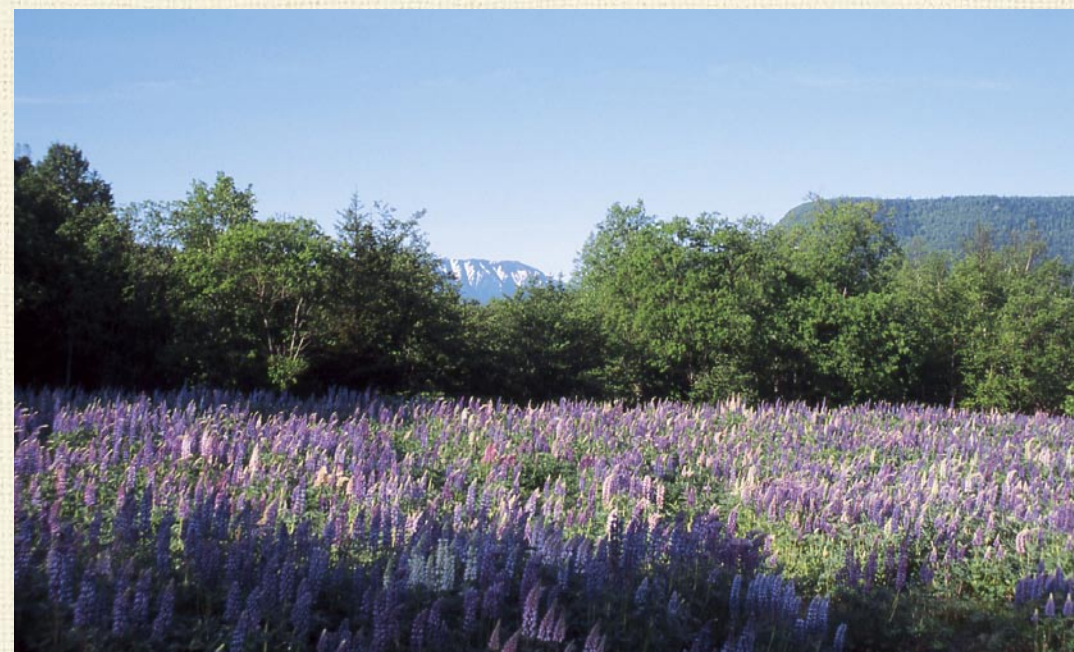
昭和 14（1939）年、国鉄土幌線が帯広から十勝三股まで開通すると、三股盆地一帯の森林伐採が盛んになった。十勝三股には製材工場ができて、北海道有数の木材の集散地となり、居住人口も 1,000 人以上になって、学校の分校も設置されるほどであった。しかし、第 2 次大戦後に道路が開通すると製材工場は上土幌に移転し、木材輸送も次第に貨車からトラックに置き換えられて、人口は減少した。昭和 53（1978）年、糠平～十勝三股間が列車からバス代行輸送となり、土幌線全線も昭和 63（1988）年には廃止されてしまった。

いま、無人の住居跡に咲くルピナスは、往時の名残である。そして、良好な森林環境と周辺の山岳の展望は、自然学習の好フィールドでもある。

かつての三股駅舎



なお、幻の鳥として知られ、国内では大雪山周辺からわずか 9 例の観察記録しかないミユビゲラが日本で最初に発見されたのは昭和 17（1942）年、繁殖がただ一度確認されたのは昭和 31（1956）年で、場所はともにこの地であった。



住居跡に咲くルピナス

Column

然別湖のミヤベイワナ



ミヤベイワナ

北海道の河川にはイwanaによく似て体側の斑紋の異なるオシヨロコマがすんでいる。主に大雪山や日高山脈、知床半島など山地の溪流にすみ、知床半島などにすむものは海に下って成長する。しかし、然別湖にすみ、川を遡って産卵するオシヨロコマは、えらの構造などから、然別湖固有の亜種とされ、ミヤベイワナの名前が付けられている。

温泉の愉しみ

大雪山国立公園の山麓には、各所に豊富な温泉がある。北海道を代表するような温泉地から、秘湯、といってよいひなびたところまで、それぞれに特色のある温泉である。



糠平温泉

然別峡温泉

主な温泉と見どころ案内



旭岳温泉



糠平温泉街

表大雪エリア 層雲峡温泉

道央で最大の温泉地であり、温泉街を形成している。泉質は硫黄泉である。旭川から網走・十勝方面を結ぶ国道沿線にあり、北海道周遊観光の主要な経過地として、また、層雲峡の探勝や大雪山登山の基地としてにぎわいを見せる。付近には、流星・銀河の滝や大函などがあり、溪谷美を堪能できる。



層雲峡温泉街

天人峡温泉

明治33（1900）年開湯の、道内では古い温泉である。硫酸塩泉。天人峡探勝の基地となっている。車道終点から川沿いに歩道があり、羽衣の滝を訪れることができる。

旭岳温泉

旭岳の麓、標高約1,050mにある。大正3（1914）年に発見された塩化物泉。層雲峡温泉とともに、大雪山登山の基地となっている。旧名の勇駒別はアイヌ語で「湯に向かってゆく川」の意で、勇駒別川付近には今も温泉の湧出が見られる。

十勝連峰エリア 白金温泉

昭和25（1950）年に掘削した硫酸塩泉。十勝岳に一番近い。温泉入り口に、延長3kmの白樺遊歩道がある。

十勝岳温泉・吹上温泉

国民保養温泉地に指定されている温泉である。十勝岳山麓の標高約1,200m、ハイマツ帯に近い高所にあり、泉質は酸性泉である。吹上温泉は十勝岳温泉のやや下方、望岳台との中間地点にある。



吹上温泉

東大雪エリア 糠平温泉

東大雪エリア最大の利用拠点で旅館などの施設が多い。単純温泉。地区内にひがし大雪博物館、スキー場、小鳥の村散歩道などがある。

大自然に包まれた温泉

この公園には、ほかにも表大雪エリアに愛山溪温泉、高原温泉、東大雪エリアには然別湖温泉、然別峡温泉（国民保養温泉地指定）、トムラウシ温泉、幌加温泉、山田温泉などがある。いずれも森林に囲まれた静かな温泉で、多くが素朴な山の湯の雰囲気を保っている。



ヌブントムラウシ温泉

祭り・イベント

層雲峡氷瀑まつり

1月中旬から3月中旬、そそり立つ氷の造形がライトアップされ、幻想的な世界が広がる。



国立公園のプロフィール

国土の7割が森林に覆われ、亜寒帯から亜熱帯まで多様な環境や動植物に恵まれた日本列島。豊かで美しい日本の自然を代表する地域が国立公園である。

日本の国立公園は1931年の制度創設以来、70年余りの歴史を有している。現在、全国で北海道から琉球列島まで、29の国立公園が指定されており、国土の陸域面積の5パーセントを占めている。全国の代表的な自然環境をカバーする国立公園は、自然環境と生物多様性を保

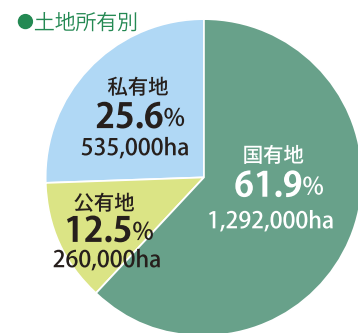
全する日本の保護地域システムの骨格を担っている。

日本の国立公園には、原生的な森林や湿原だけでなく、人と自然の関わりを通じて形成された農耕地や集落周辺の自然、また歴史的、文化的景観も含まれている。さまざまなレクリエーションや観光、教育活動などに利用することも目的としており、地域社会との共存を重視している。

日本の国立公園は、土地所有にかかわらず指定される。公園内の国有地も、多くは公園以外の目的で管理されている。このため、土地所有者を始めさまざまな関係者と産業活動や土地利用の調整を図りながら、自然資源の保護と持続的な利用を両立させていくことが日本の国立公園管理の基本となっている。

国立公園の管理はゾーニングにもとづいて実施されている。公園区域は、自然環境や景観の特性に応じて、最も厳格に保護される特別保護地区、公園区域の主体をなす特別地域、そして緩衝地域としての普通地域の3つのゾーンに区分されていて、樹木の伐採や建設工事など景観に影響を及ぼすような活動は、許可または届出の対象となっている。

国立公園の実地の管理は、環境省の地方環境事務所が地方公共団体などの協力を得ながら実施している。各公園には自然保護官が配置され、開発行為との調整、利用施設の整備、普及啓発・インタープリテーション、自然環境のモニタリングなどの業務に携わっている。



日本の国立公園

- | | |
|------------|-----------|
| 1 利尻礼文サロベツ | 19 伊勢志摩 |
| 2 知床 | 20 吉野熊野 |
| 3 阿寒 | 21 山陰海岸 |
| 4 釧路湿原 | 22 瀬戸内海 |
| 5 大雪山 | 23 大山隠岐 |
| 6 支笏洞爺 | 24 足摺宇和海 |
| 7 十和田八幡平 | 25 西海 |
| 8 陸中海岸 | 26 雲仙天草 |
| 9 磐梯朝日 | 27 阿蘇くじゅう |
| 10 日光 | 28 霧島屋久 |
| 11 尾瀬 | 29 西表石垣 |
| 12 上信越高原 | |
| 13 秩父多摩甲斐 | |
| 14 小笠原 | |
| 15 富士箱根伊豆 | |
| 16 中部山岳 | |
| 17 白山 | |
| 18 南アルプス | |



北海道の国立公園



3 阿寒 Akan

指定年：1934.12.4 面積：90,481ha

日本で最も歴史のある国立公園の一つ。トドマツ・エゾマツの原生林と、火山活動で形づくられた大小の湖が景観の基調となっている。北海道らしい自然の奥深さを感じさせる公園である。活動中の火山もあり、各所に温泉が湧出する。

2 知床 Shiretoko

指定年：1964.6.1 面積：38,633ha

北海道の東北部に突き出した知床半島の中央部から先端部が指定されている。定住人口はほとんどなく、海と陸が一体となった原始的な生態系が残されており、ヒグマ、オオワシ、トドなどの大型野生動物が息づく。平成17(2005)年に世界自然遺産地域に登録された。



4 釧路湿原 Kushiro-Shitsugen

指定年：1987.7.31 面積：26,861ha

昭和62(1987)年に指定された比較的新しい国立公園。釧路湿原は釧路川の流域に広がるスゲ類などの低層湿原を主体とした我が国最大の湿原で、タンチョウやイトウなど絶滅のおそれのある野生動物の貴重な生息地でもある。昭和55(1980)年に我が国で最初のラムサール条約の登録湿地となった。



6 支笏洞爺 Shikotsu-Toya

指定年：1949.5.16 面積：99,473ha

活発な活動を続ける火山とカルデラ湖の景観を基調とする公園で、自然性の高い森林を多く含んでいる。札幌大都市圏に近接し、アクセスが良いため、身近なレクリエーションのフィールドとして多くの人々に親しまれている。



1 利尻礼文サロベツ Rishiri-Rebun-Sarobetsu

指定年：1974.9.20 面積：24,166ha

日本最北の国立公園。洋上の孤立峰利尻島、固有の植物が見られる礼文島、そしてサロベツ川の河口に広がる広大なサロベツ湿原の三つのエリアから成り、変化に富んだ景観と動植物が特徴である。



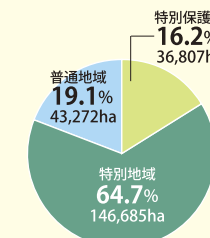
5 大雪山 Daisetsuzan

指定年：1934.12.4 面積：226,764ha

22万6千ヘクタールの日本最大の国立公園。北海道の屋根となっている2000m級の山並みが連なり、山上には高山植物の大群落が広がっている原始性の高い公園である。ヒグマをはじめさまざまな野生動物のすみかとなっている。

●来訪者数：610万人(2006年)

●保護の枠組み



●土地所有別

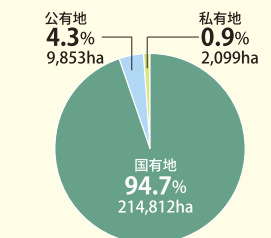


写真
氏家ひろき、江戸勝男、大橋年治、勝山重雄、久保敬親、小池正一、小杉重吉、笹木金次、佐野勝一、佐藤武史、里瀬勝、橋智行、二橋愛次郎、百武充、福田基久、森本夏彦、山田良造、吉田六郎、上士幌町観光協会、層雲峡観光協会、鹿追町観光協会、(株)アフロ、(株)北海道アート社、(株)北海道新聞社、(株)北海道ネイチャーセンター、(株)りんゆう観光